

コロナ禍の中の保育園

★初めての緊急事態宣言

コロナ禍の中で2020年が始まり、新年度を迎えて間もない4月9日、緊急事態宣言が出され、保育園も臨時休園という初めての事態を経験しました。6月に保育を再開してからは、三密を避ける新しい生活様式を保育にも求められました。

with コロナの時代の子育てを支えていく保育園は何をどうしていけばよいのか悩み続けた1年間でした。

感染を防ぐために人の交流を断つことは同時に経済を止め、生活不安をもたらします。

保育園はまさにその狭間で、子どもたちの成長のために必要な生活・体験を保障すること、保護者の就労を支えること、子どもたちとそのご家族、職員とその家族の健康と命を守ることに責任を重く感じてきました。

★学びつつ悩みながら、新たな発見も

新型コロナウイルス感染症について専門家の知見から学び、様々な情報を集めながら、感染症対策を重視した新しい保育の方法を模索してきましたが、その中で新たに得たこともたくさんあります。

手洗い・消毒を丁寧に行う生活の中で、風邪などの発症が極端に少なくなっています。毎日元気に子どもたちは保育園に来てくれました。

特別保育や登園自粛期間の中で、保育室の面積に対して少ない子どもの人数の保育は、子どもたちと丁寧にかかわることができ、異年齢の子どもたちの交流の良さも実感しました。

小学校でも35人学級の施策が出されていますが、保育園でも保育室の面積基準と保育士の配置基準の改善もぜひ求めていきたいと思っています。

また、オンラインの会議や研修を経験し、職員の働く条件の改善にも活用できるのではないかと感じました。保育におけるICT化は、まだまだ不得手なところがありますが、すすめていくことの意義を感じることができました。

子どもたちは保育者とのスキンシップの中で安心感と愛されている実感を持ち、子ども同士の密接なかかわりの中で、互いに刺激しあい育ちあう存在です。乳児期・幼児期の子どもたちのかけがえのない成長の日々を守るために、日々悩みながら保育の内容や行事を工夫してきましたが、その中で感じるのはやはり子どもたちの可愛さと、子どもたちの成長の瞬間に立ち会えることの喜びでした。



★誰一人悲しい思いをすることなく・・・

2000人を超える都内感染者数の発表が続き、再度の緊急事態宣言が発令されました。区内の保育所でも感染報告が激増しています。感染力の強い変異ウイルスも出てきています。

今後も感染防止のためにできることに精一杯取り組みながら、保育園の運営に努力していきます。

保護者の皆さん、職員の皆さん、感染拡大防止により一層のご協力をお願いします。

誰も悲しい思いをすることなく、この事態を乗り越えていきたいと心から思います。一緒に子どもたちの成長と笑顔を守っていきましょう。

特集

コロナ禍の中での行事の取り組み



新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、保育園では大勢が集まって行う活動や行事は中止すること、と行政から通知がありました。しかし、子どもたちが楽しみにしている活動や、保護者にも見に来てもらい、子どもたちの成長を共に喜びあう行事を全部なくすことはできません。各園それぞれが、いろいろな形で工夫しながら行った取り組みをご紹介します。



運動会・おまつり

～陽だまり保育園～

子どもたちに「成長の土台となる経験を保障したい」を基本にいろいろ工夫してきました。



運動会は幼児クラスの子どもたちだけの開催でしたが、乳児の運動遊びも加え、保護者の協力で0歳から5歳までの成長を共有できるステキな動画になりました。

陽だまりまつりも、子どもたちだけのおまつりごととして開催、異年齢交流の良い機会となり



ました。制限がたくさんある中での工夫は新しい発見を生み出し、コロナ後にも生かせる経験となりました。

マスクで懇談会 ～ひよっこ保育室～

4月に出来なかった全体会をクラス懇談会として行いました。本来なら方針や目標・お願いなどを皆さんにお話するのですが、今回はクラスごとに分けて時間を短くしたので、懇談会の資料の内容を割愛し保護者同士が悩みや子どもの成長を話し合う場としました。はじめましての方もいたので、食事・生活リズム・トラブル・スマホ等話題が盛りだくさんで、楽しそうにお話していました。日頃の保育の動画はPC1台を一緒に見るのではなく、ひよっこ会議室ではスクリーンに映して、クラスでは2～3台のPCを使って見ました。ソーシャルディスタンス、距離を取ることによって安心して参加して頂けたようです。



保育参観 ～さくらんぼ保育室～

日頃、子どもたちがお友だちとどうやってあそんでいるのか、どんな姿を見せているのか…気になりますよね。毎年、保護者の方にマスクと三角巾、エプロンで変装してもらい、日中の様子（散歩～午前食～入眠）を見ていただいています。ご両親での希望も多いのですが、今年は1日1名で調整しました。沢山の父母に参観してもらい、「お家と同じ姿です」「楽しく過ごしてますね」「お友だちとあそんでいて良かった」と様々な感想が聞かれました。期間を長くしたり人数を減らす等中止にするのではなく、出来る事は何かを考える事が大切だと感じました。



クリスマス会 ～ゆりかごの家～

今年のクリスマス会は
クラス毎に行いました。
例年行っているクラスの
発表をビデオ録画して、
限定公開の動画閲覧サイト

に載せる事で保護者にも見てもらうという形になりました。観客がいなくてもサンタ帽をかぶった子どもたちの笑顔はキラキラと輝き、恥ずかしがりながらも発表を行う姿は、with コロナの中控えめに過ごした日々とはかけ離れた成長ぶりを見せてくれました。初めての試みで簡単な事ばかりで

はなかったですが、子どもたちの笑顔を見るとやって良かったなあと思いました。



食育の紹介 ～ひまわり保育室～

食育の一環として、旬の野菜～レンコン～を使い
野菜スタンプ、ピクルス作りを行いました。

一人ひとりの間隔を開けて、
向かい合いにならないよう
交互に座り作業開始です。
野菜スタンプは、レンコンに
色を付けペッタンペッタン！
花のようになりました。



ピクルスは、レンコンのほか
人参、パプリカも使い、星型
にして瓶に入れ少し漬け込
みました。いつも食べない人
参やパプリカもピクルスに
すると食べた子どもたちで
した。

今年のなつまつり

～つくしの家保育室～

毎年、昨年の様子（→）
のように賑やかに行って
いるつくしまつりですが
今年はそれも叶わず、
保育中におまつりの雰囲気
味わいました。夏と言えばすいか割り！ということで、すいか割りを楽しんだり、保護者との思い出も作ってほしいということで、『つくしまつり』の写真
枠を作り、記念撮影をしました。



ソーシャルディスタンスで食育

～あゆみ保育園～

目の前で作るとよく食べるということから、2～
3歳児向けに、時々「Liveキッチン」を行って
います。匂い、音、工程すべてが食への関心に繋が
ります。今年は距離をとって行ってみました。離れ
ていますが、それでも目の前で作ってもらったもの
は、よく食べました！今後も工夫して色々な取り組
みをしていきたいと思います！



例年の様子



今年の様子

各園の創意工夫が感じられる行事を紹介しました。新しい生活様式の中で、いかにして子どもたちに
必要な経験と楽しみを提供できるか。さらに知恵を絞って工夫しながら行っていきたいと思います。

ともそだちネット 法人研修

新型コロナウイルスの影響で、毎回『今回の研修はできるのか、行おうとしたらどんなふうに行えるのか』を試行錯誤して行ってきました。11月の事例検討は参加者を5日間に分けて行い、12月の研修は会場で受ける職員と、会場と各園を繋ぎZOOMで参加する職員と分け、密にならないように行いました。



11月 主任会主催 事例検討

各園の保育中の動画の一コマを見て気づいたことなど、意見を出し合いました。今回は遊びの様子（環境設定）、遊びから着替え、散歩へ向かうまでの流れにおいて、各園それぞれ環境は違いますが、『主体性』を大切に保育をするにはどうしたらいいかというところに重点を置き、意見交換を行いました。

＜参加者の声＞

子どもたちにどこまで声をかけてよいか、どこまで手伝うか、日々難しいと感じている。



生活の中で保育士との関わり、関係性が重要で、保育士の見守りの中で子どもたちは成長すると改めて感じた。

12月 法人研修 「言葉」

『人はどのようにして話すようになるのか？』『コミュニケーションとは？』保育室に入る子みんなに関わってくるテーマです。『言葉』をテーマにした研修は法人では初めてでしたがハッとさせられる内容もあり、大切なことを感じられた研修でした。言葉の発達に少し心配があったときのポイントとして…

【おおらかに 受け止め こまやかに 観察し さりげなく行動（対応）する】

言葉は教え込むものではなく、その子どもの能力に添ったきめ細かいコミュニケーションの結果、子どもの側から湧き出てくるものです。そのために上記の言葉を胸に子どもたちと接していきたいですね。

＜参加者の声＞

「ことば」が全身の発達とつながりがあることを再確認できた。



子どもの発するサインを見逃さないように、じっくり時間をかけ、言葉の土台（感情や心）を作っていきたい。



講師紹介 長澤 泰子 先生
NPO 法人こどもの発達療育研究所顧問。
東京都心身障害者福祉センター、国立特殊教育総合研究所・言語障害教育研究室長、広島大学教授、慶應義塾大学教授、日本橋学館大学教授を経て現職に就く。教育・療育関係の中での伝承や、相談を受けている。

あとがき

コロナ禍で『三密回避』『手洗い・消毒・換気』『ソーシャルディスタンスを保つ』の1年でした。来年度こそは、安心の中心穏やかに過ごしたいものですね。（F）